



鵬蹴

鵬蹴 49 号

防衛大学校 OB 会



朋鵬蹴

朋鵬蹴 49号
防衛大学校OB会

鵬蹴 49 号目次

表題 高田 進六氏

1	巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
2	令和2年度を振り返って・・・・・・・・	P 5
3	令和2年度の活動成果・・・・・・・・	P 9
4	令和3年度年間活動計画・・・・・・・・	P 15
5	第69期新入生紹介・・・・・・・・	P 19
6	OB会会則・・・・・・・・・・・・・・・・	P 21
7	OB会会計報告・・・・・・・・	P 25
8	令和3年度OB会役員・・・・・・・・	P 28
9	お知らせ・・・・・・・・	P 29
10	編集後記・・・・・・・・	P 31

1 巻 頭 言

コロナ禍の中、防大サッカー部 OB 会の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。本原稿を書いている今は9都道府県の緊急事態宣言が延長され、オリンピックの開催がどうなるのかも含め、予断を許さない状況ですが、ワクチン接種の拡大もあり、状況が改善され、いろいろな活動への制約が緩和されることを期待します。

さてわが国周辺の安全保障環境は更に厳しさを増しているように思います。昨年行われた大統領選の結果、米国はバイデン政権へと移行し、その国防外交政策の方向性がどのようなものになるのか注目を集めているところです。その影響もあつてのことか朝鮮半島情勢は様子見の感があるものの、今後再び緊張が高まる可能性は高いものと思われまふ。また米中の緊張状態も基本的には競争の構図に変化はなく、高いレベルでの緊張状態が長期化することが予想されます。中国に対する姿勢という観点ではインド太平洋地域だけではなく欧州諸国の関心を集めており「法による支配」「自由で開かれた」「人権」といった価値観を共有する国々による中国への批判的な声、行動が世界的に強くなり始めていることは好ましいことだと感じています。が、しかし習近平にリードされた中国があらゆる手段を活用して「核心的利益」を守る、との意思のもと、強硬な姿勢を維持していることには強い警戒感を感じ、これまで以上に日本国としてのしっかりした対応を期待したいところです。また国内でもこれまでのような従来型の災害対処だけでなく、コロナ関連のような新たな形の活動を求められる、言い方は悪いけれども「困ったら何でも自衛隊」のような風潮が国内的にはあるように思います。このような大変な国際情勢、国内情勢の中、現役自衛官として活躍している防大サッカー部 OB の皆さんには心から敬意を表したいと思ひます。

今シーズン、現役サッカー部は 65 期生を中心に大変頑張ってくれたと思います。全自衛隊大会はコロナで中止になり、知事杯は残念ながら2回戦敗退となりましたが、関東大学サッカートーナメントではプレーオフに進出しました。またコロナで秋季だけとなった神奈川県大学サッカーリーグ戦では東海大に次いで2位となり、関東大学予選リーグに進出しました。リーグ戦では惜しくも予選突破はなりませんでしたが、実力は発揮してくれたものと感じています。今年度は無観客での試合ばかりで応援に行けず悔しく残念でしたが、やはり現役の活躍は OB にとっては一番の喜びです。新4年生66期を核にした現役サッカー部の新たな年度での活躍に大いに期待したいと思ひます。OB 各位におかれましてはこれまでと同様の応援のほど、新年度もよろしくお願ひします。

今年度のOB会の活動としてはコロナの影響はありましたが8月、4月（年度を越えましたが）に東京大学OB及び北海道大学OBとの交流戦を行いました。OB 交流戦は活動の目玉であると認識しており、「実施する」モメンタムを維持することが最重要だと考えから新年度も頑張つて夏冬、二回の実施を計画したいと思ひます。

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。